

全国襖工業会(会長倉田正敏)の工業会通信で辻産業(株)辻将士社長の所感が報じられましたのでご報告いたします。

全国襖工業会 会員各位様

日頃は工業会の活動にご協力ありがとうございます。

第三回工業会通信は辻産業株式会社の辻が担当させていただきます。今回は海外から見た日本の和のインテリアについて述べさせていただきます。

今春、イタリアミラノで開催された世界的な展示会“ミラノサローネ”に行つてまいりました。襖関係者から見たサローネレポートはあまりないと思つたので、私がレポートさせていただきます。

展示会には CASSINA など多くのメーカーが何億円もするようなブースを設営しておりました。その中でも私が注目したのはアルミ建具の Rimadesio、キッチン**bulthaup**。どちらも業界をリードするトップブランドです。

Rimadesio は世界で初めてインテリアにアルミ建具を提案した会社です。同社のアルミ建具は1枚40万円超の超高級アルミ建具です。弊社も含めて日本にもアルミ建具を製作している会社がありますが、すべてはこの会社から始まっています。その最新作がこちら→→→。

日本の障子に影響されて開発したそうです。



bulthaup はクオリティーだけではなくデザインの獨創性も認められているメーカーです。価格も500万円超だが **cuccina** などの高級キッチンメーカーも苦戦するほど高所得者層から指示されています。その2016のコンセプトムービーは“せいか”の見本帳より襖紙を選ぶところから始まります。(Youtubeで“Film bulthaup Milan 2016 ENGLISH”で検索してみてください。)

襖業界は今までと違う発展をしなくてはならないと思います。均一な商品を大量に安く作ることから、エンドユーザーのニーズに応えるような物作りへと変わることが生き残る一つの道だと思います。

海外から見れば日本の襖、障子、格子、表具は素敵でインテリアの素材であることを忘れてはならないと思います。海外メーカーが和の文化を取り入れてアルミ障子を1枚40万円超で販売しています。

海外では木、金属、石、タイル、布、等々いろいろな素材を組み合わせて素敵なのが作られています。みんな自社でできない素材であっても必要とあれば必死に取り入れて物作りをしています。

沢山売れるかどうかわからない、機械化できないところは手作業、それでもできないところは仲間の技術に助けられて作り上げる。

これって完全に我々襖業界の得意とするところではないでしょうか？住宅が減って困るのは私達ではなく大きなラインを抱えて大量生産せざるを得ない大工場です。これからは襖業界にチャンスがあります。大きな設備や大きな需要に縛られることなく物作りができるのが我々襖業界だと思います。

酒飲みながら“襖はあかんあ”ってストレス発散も楽しいですが、たまには“うちの工場でこんな作ってんけど、めっちゃカッコよくない？”なんて夢も語り合えるといいなと思います。

